



ごうちゃんねる (GO-CHANNEL)

2022/08/06

あっさり黙示録

#27 『**艱難時代のサバイバーたちを鼓舞するビジョン**』

黙示録 14 章

東住吉キリスト集会 高原 剛一郎 氏



お元気ですか。高原剛一郎です。今日は**あっさり黙示録**の第 27 回目です。



私は 4 年ほど前に、『ヒトラーを欺いた黄色い星』(2017 年) という映画を鑑賞しました。これは実話に基づく映画です。

第二次世界大戦中、ヒトラーのナチス政権は、ドイツ国内にいたユダヤ人、ドイツ国民ですよ、ドイツ系ユダヤ人をゲットーに押し込めました。その数 16 万人。当初は労働力として利用することを考えていましたが、徐々に考えが変わり、ユダヤ人絶滅計画に舵を切って、この 16 万人を皆 死の強制収容所に送り込んだのです。

そして 1943 年 6 月、宣伝相ゲッベルス (1897-1945) が宣言しました。

「わが帝国の首都ベルリンに、ユダヤ人は 1 人もいない。ユダヤ人は全員追放した！」

しかし、それは違います。宣言の最中にも、約 7000 人のユダヤ人たちがベルリンにいたんです。もちろんユダヤ人という素性を隠しています。しかし 7000 人の内の 1500 人は、戦後も生き延びることができたんですね。

最もヒトラーの目が行き届いている、最もナチスの権力が隅々にまで及んでいる、ヒトラーのお膝下のベルリンで、戦時中ずっと生き延びることができたユダヤ人たちがいた。

この 1500 人のユダヤ人たちは、まさに神によって守られたとしか言いようがないんですね。

4 人の人物に焦点を当てて話は進んで行きますが、この映画がすごいのは、ユダヤ人を演じる 4 人の俳優だけでなく、当人の 4 人が出て来て当時のことを証言するという、ドキュメンタリーと映画が合体するような映画だったことです。

黙示録 13 章は、2 人の凶暴な人物 (反キリストと偽預言者) についての情報でした。

彼らは特に艱難時代の後半 3 年半、やりたい放題の限りを尽くします。

読んでいて恐ろしいし、本当にうんざりしますね。彼らに逆らうと、すべての経済活動から追放されるだけでなく、獣 (反キリスト) の像を拝まない人は皆殺しにされたと書いてあるからです。

しかし今日の**黙示録 14 章**は、この反キリスト全盛期を生き延びた人々について書いてあるんです。

しかも、先ほどの映画の生き延びたユダヤ人のように、ヒトラー全盛時代の中でただ隠れ、ただ素性を隠し、ただ命を保つために汲々としているのではないんですね。

反キリスト全盛の後半 3 年半の間、144,000 人のユダヤ人伝道者たちは、全世界に出て行って福音を宣べ伝えます。その福音の中には、もちろん**黙示録**のメッセージが入っていることでしょう。

世界中の人々に反キリストの正体をつまびらかにし、イエス・キリストこそが真の救い主であることを宣べ伝えるんですね。

黙示録 14 章

1 また私は見た。すると見よ、子羊がシオンの山の上に立っていた。

私は黙示録の作者でイエスの 12 弟子のヨハネ。子羊はイエス・キリスト。
シオンの山はエルサレムの別名。

シオンは、狭い意味はエルサレムを構成している山々の 1 つ、シオンの丘/シオン山。
やや中くらいの意味はエルサレム全体。広い意味では、約束の地全体を言う場合があります。
「約束の地に帰って、ユダヤ人の国を造ろう」という考えをシオニズムと言います。
「シオンに帰ろう」という意味があるんですね。

子羊（イエス・キリスト）がシオンの山（エルサレム）の上に立っていた。

イエス・キリストは天の御座におられるのに、エルサレムの上に立っていた。

天から降りて来て、エルサレムの上に降り立った。つまり、イエスがエルサレムに地上再臨して立っている姿を語っているのです。地上再臨した後の情景の説明が 14 章 1 節です。

エルサレムに立っているのはイエスだけではありません。

1 また、子羊とともに十四万四千人の人たちがいて、その額には子羊の名と、子羊の父の名が記されていた。

勝利者イエス・キリストの脇を固めていたのは 144,000 人の人たち。

彼らは 7 章で紹介した、イスラエル 12 部族の中から 12,000 人ずつ起こされる、艱難時代に活躍するユダヤ人信者・伝道者です。144,000 人のユダヤ人信者が全世界に出て行って、それぞれの国の人々に、その国の言葉でイエスの福音を伝えるんですね。

彼らの特徴は、その額には子羊の名と、子羊の父の名が記されていた。

13 章では、反キリストの名前を表す 666 が額に刻印されていました。

ここでは、彼らの額には子羊の名と、子羊の父の名が記されていた。まったくの正反対。

全世界が皆 こぞって反キリストを拝む時代に、妥協せずにイエス・キリストとイエス・キリストの父なる神に献身していたユダヤ人信者たちなのです。

2 また、私は天からの声を聞いた。それは大水のとどろきのようであり、激しい雷鳴のようでもあった。しかも、私が聞いたその声は、豎琴を弾く人たちが豎琴に合わせて歌う声のようであった。

ギターの弾き語りではないのですが、豎琴を弾く人たちが豎琴に合わせて歌う声。

天からの声なので天の住人ですね。おそらく艱難時代に殉教した人たちは天にいます。

彼らは殉教の最中、神の支えを明確に経験していました。

殉教を目の前にしても、勇気を失わず信仰を捨てなかったのは、ただただ神の恵みです。

そのような困難の中でしか見出すことができない、特別な神様の守りや祝福を歌うことができました。

3 彼ら（144,000 人）は御座の前と、四つの生き物および長老たちの前で、新しい歌を歌った。しかし、地上から贖われた十四万四千人のほかは、この歌を学ぶことができなかった。

144,000 人は天に行っていないんですが、地上で 7 年間にわたって困難な時代を生き延びたんです。サバイバーですね。しかし 7 年間、迫害の対象となり、目の敵とされ、追いかけて回されて来た。

あっさり殉教するより、7年間艱難時代を生きるほうが、もしかしたら激しい苦しみかもしれません。この144,000人も殉教者と同じく、迫害のただ中で神の守りを経験していました。困難の中で妥協せず、キリストに信頼した人たちだけが見ることができる光景が確かにあるのです。彼らはその意味を知っていました。

この歌を学ぶ。経験を通してキリストの真実を味わっている人たちだけが、その歌詞の意味を本当に深く味わい知ることができるのです。

ところで、艱難時代後半の預言は**黙示録 15章**以降に出て来ます。

この**14章の1節から5節**は、艱難時代が終わった時の光景を見せてるんです。

艱難時代がキリストの地上再臨で終わって、キリストが勝利者として**シオンの山の上に立っておられる**。そのお付きとして・脇を固める者として、144,000人がそこでキリストの祝福を受けている光景です。

今から艱難時代後半が始まろうとしている時に、なぜここでゴールの光景を見せているのでしょうか。最後は報われるというゴール/ハッピーエンドを見せることによって、励ましを与えているのです。

私の長男は大変な怖がりで、小学生の時 恐ろしい絵や映画、画像を見ると夜泣きするんですね。見た映像を夢の中で再現して、夜中の2時3時にビャーッと泣き叫ぶことがあったんです。

そんな彼が、夏休みに読書感想文を書かなければならなくて、課題図書は確か 原爆の子供たちの話。表紙がケロイド状態の子供たちの絵で、もう見るなり「読みたくない。こんなん読んだら心に焼き付いてしまって、今晚寝られなくなるから絶対読みたくない。」

でも、宿題なので感想文を書かないと駄目なんですよ。そのためには読書しないと駄目。

それで彼が取った方法は、最後のページから読み出すことでした。最後がハッピーエンドなら、途中が苦しくても最後まで読み通すことができるだろうと考えたのです。

黙示録は次々恐ろしい内容が紹介されていますが、ただただ怖いだけの本ではなく、最終的には究極のハッピーエンドを語っている本なのです。創造主から離れて困難ばかりが続くこの世・その時代にあって、信仰者たちを励ますのです。

第一ペテロ 2章 6節

この方（イエス・キリスト）**に信頼する者は決して失望させられることがない。**

この信仰を強めるための励ましの言葉。それが**ヨハネの黙示録**なんですね。

今まで縷々解説して来ましたが、艱難時代に入る前の今の時代、艱難時代の前兆をいくつも見る事ができると思います。ある意味、黙示録の真実性がこんなによく分かる時代はないと思います。

黙示録が提示している子羊、あなたのために犠牲となってよみがえった子羊イエス・キリストは、あなたを愛し、あなたが立ち返って来るのを待っておられます。

ぜひイエス・キリストを信じて、永遠のいのちを頂いてください。心からお勧めします。

チャンネル登録もお願いします。ではまた お目にかかりましょう。さよなら！

☆使用した聖書は「聖書 新改訳 2017」です。